

ふれあいボランティア活動 感想文集



令和4年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

令和4年度ふれあいボランティア活動感想文集発行にあたって

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていくこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていくこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する認定NPO法人です。

SSCでは、地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する「ボランティア体験学習」の中で人々とふれあって行うボランティア活動のこと）は、青少年が『人間力』を育むために最適な取組の一つであると考えています。

その児童生徒の「ボランティア体験学習」のきっかけ（動機付け）を提供し、支援するツールとして、SSCでは「ふれあいボランティアパスポート（以下、FVPという）」を学校や団体に無償で提供しています。

「ふれあいボランティア活動感想文」（以下、感想文という）の募集は、児童生徒の皆さんに1年を通じてFVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んだ後に、感想文を書くことでその活動を振り返り、自らの学びや成長、今後に向けての意思を確認する機会としていただくことを目的として実施しています。当事業は、当法人設立時より今年度で11年目を迎え、感想文集も11冊目の発行となりました。

これまでに、延べ40万人を超える児童生徒がFVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んできました。この感想文集は、これまで多くの児童生徒が取り組んできた「ボラン

ティア体験学習」の取組に対するそれぞれの思いを受賞者に代表していただく形でご紹介いたしております。

この感想文集を、多くの方々に是非お読みいただき、「ボランティア体験学習」が子どもたちにとって成長するうえで貴重な機会であること、青少年期に必要なものであることを知っていただきたいと思います。

令和4年度は、コロナ禍で人との関わりが制限される状況も丸3年となり、「ボランティア体験学習」の実施においても引き続き難しい環境にあったことと拝察いたします。当年度の感想文集では、残念ながら中学校からのご応募はありませんでしたが、小学校、高等学校、団体（11校1団体）から感想文120点のご応募をいただきました。

FVP参加校、参加団体の教員、指導者の皆様の変わらぬ「ボランティア体験学習」実施へのご努力と、保護者や地域の協力者の皆様のご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

今回の感想文集も、これまでと同様に児童生徒のボランティア体験学習による成長が瑞々しい感性で書かれた感想文ばかりです。この感想文集を読まれた皆様におかれましては、近隣の学校、団体の皆様にもご紹介いただきまして、FVPを活用した「ボランティア体験学習」の輪を広げていただければ幸いです。それでは、令和4年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思います。

令和5年3月1日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介します。ダウンロードできます。（URL：<http://www.sectpo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数120点（小学校9校・1団体64点、高校2校56点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動感想文大賞】（1人）

東京都立穂ヶ丘高等学校3年

新村 皇斗さん
しんむら みこ

【小学生賞】（10人）

鹿児島県南九州市立中福良小学校3年

浮邊 菜緒妃さん
うきべ なおき

福岡県大牟田市立駛馬小学校4年

古賀 広大さん
こが こうだい

福岡県大牟田市立駛馬小学校5年

柿野 蒼太さん
かきの そうた

千葉県栄町立竜角寺台小学校5年

木村 咲希さん
きむら さき

秋田県鹿角市立花輪小学校5年

藤原 真織さん
ふじわら まおり

福岡県大牟田市立中友小学校5年

文田 洸成さん
ふみた こうせい

【高校生賞】（6人）

東京都立六本木高等学校2年

飯島 詩音さん
いじま しおん

東京都立穂ヶ丘高等学校2年

渡辺 想来さん
わたなべ ぞら

東京都立穂ヶ丘高等学校3年

小柳 遙歌さん
こやなぎ はるか

東京都立穂ヶ丘高等学校3年

坂本 真菜さん
さかもと まな

東京都立六本木高等学校3年

沼田 航輝さん
ぬまた こうき

東京都立穂ヶ丘高等学校4年

服部 蒼太さん
はっとり そうた

福岡県大牟田市立中友小学校6年

大河 叶愛さん
おおかわ とあ

福岡県大牟田市立中友小学校6年

高口 心優さん
こうぐち みゆ

福岡県筑紫野市立二日市小学校6年

安川 綾乃さん
やすかわ あやの

秋田県鹿角市立十和田小学校6年

湯沢 莉桜さん
ゆざわ りお

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団理事長、
公益社団法人全国公民会連合会理事、アナウンサー、

エッセイスト 村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳氏

◆講評

選考委員長

ボランティアを通して身につけた会話の力

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団理事長、
公益社団法人全国公民会連合会理事、アナウンサー、

エッセイスト 村松 真貴子

マスク生活を3年間にわたって強いられたい子どもたち、
マスクがなかったら相手がどんな気持ちかわかるのに……
悩んだことも多かったことでしょう。そんな中で今回は、
会話を工夫してコミュニケーションを深めることに
努めたボランティア活動が心に残りました。

高齢者と話するには、どう声をかけたらいいのか、不安だったことでしょう。でも、6年生を見習い会話のキャッチボールができるようになったことは大きな収穫でした。認知症のお年寄り（役の人）には、目と目を合わせて優しく声をかけるようにしたのも良かったですね。また自分の言葉で自分にしかできない発表をしようと頑張ったから、聴いている人に思いが伝わったのです。野球のコーチをするにあたって、選手の個性をつかみ、その子に合った話し方をするように工夫したのは指導者の鏡のよう。首脳陣の分析までしているとは！観察力がありますね。

駐輪場整備員のボランティアの様子は、情景が目に浮かんでくるようでした。見知らぬお年寄りとの会話に胸が熱くなりました。ドラマのワンシーンを見ているような表現力に感心しました。

人は会話のキャッチボールをしながら心をつなげていきます。ふれあいボランティア活動を通して、そうした会話の力・生きる力を身につけていった子どもたち。感謝する心、思いやる気持ち、自然環境に寄せる思いが、人に優しい社会をつくる礎になります。作文を読ませていただき、「言葉は未来を創る道具」だとあらためて感じました。

選考委員

社会への入り口となるボランティア活動

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

選考委員として皆さんの作文を読んで感じたのは、「ボランティア活動は、社会への入り口になっている」ということでした。コロナ禍にあつて、家族以外の人との交流がこれまでに以上に限られたものになってしまいました。なかば強制的な行事の一環としてのボランティア活動のターゲットだったかもしれません。作文のなかには、参加して地域の方々から感謝され、皆さんが温かい気持ちになつたり、工夫してもっと活動を広げたいと思うような意欲がわいたり、地域や社会課題への気づきから将来の職業イメージに広がるなど、日常生活から大きく社会への一歩を踏み出す意識を感じ取りました。一方で、家族内の支え合いやケアを通じて、これからの将来を考えた作品もありました。

ボランティアやケアは、どちらも相手があることです。ね。相手の話を良く聴くこと、相手の気持ちに寄り添うことによって、視野が広がり、自分自身が強くなったという感想もありました。世代を超えた活動から、人生の先輩へのリスペクト（尊敬）、後輩への配慮など、大きな目に見えない大切なものを得られましたね。

貴重なボランティア活動の報告をありがとうございます。活動によって自分の気持ちの変化をよりわかりや

すい表現で書いてくれた作品を選考させていただきました。私も読んで気持ちが温かくなりましたが、この経験はきっと皆さんの将来に豊かさをもたらしてくれるものと確信しました。

学び取る力

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

ふれあいボランティア活動の感想文を読ませていただきました。日本全国で皆さんが様々な種類のボランティアに取り組まれている様子を見て、私自身がとても励まされる思いでした。

印象的だったのは皆さんが活動を通して色々な変化に気づいていることです。ボランティアの捉え方、活動をして知った新たな自分、日ごろ当たり前の風景が誰かに支えられていたこと、成長した自分、将来の夢、など実に様々な気づきが表現されていました。感想文を書くことで良い内省にもなったのだと思います。

学力というと、一般的には知識の量や計算の速さなどテストで高得点をとる力のように考えられています。皆さんの文を読んでいて、学力の本来の意味は「様々な経験から何かを学び取る力」ではないかと思えました。私たちは、日々色々な出来事や人に出会っていくわけですが、そこで何かを学び取れるか否かは違いがあり、それを繰り返していくと大きな差が生まれます。その意味

で、皆さんが今回経験をして、学び取るサイクルを自分の中に手に入れたことはとても貴重な経験であったのではないかと思えました。

これからも皆さんが多くの新たな経験を重ね、人として成長されていくのが本当に楽しみです。社会情勢は不安定で、悲しくなるニュースも多いですが、だからこそ人と人が支え合うことにいつも以上に価値があるのだと思います。これからもどうかみんなで励まし合いながら、頑張っていきましょう。

心の成長の軌跡が伝わる

元日本教育新聞社取締役編集局長・

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳

ここ3年に及ぶコロナ禍にあつて、感染症拡大防止に配慮し、人との接触を極力減らすため、大人たちの地域活動同様、児童・生徒のボランティア活動も自粛ムードに包まれてきました。

こうした厳しい状況が払拭されない状況がある一方で、さまざまな工夫を講じて非接触型のボランティア活動を創造している児童・生徒たちが存在していることに心強さを感じています。

「ふれあいボランティア活動感想文」に寄せられる作品からも、コロナ禍を縫ってそれぞれの地域で活動をし、あるいは、ボランティアする心を失わずいることが伝わってきます。

それはまた、小学校の低・中学年から高校の定時制(Ⅱ部制)4年生までのほぼ10年の間に経験、体験したことが、心を耕し、豊かにし、自分の内なる声に耳を傾けられるようになり、人や社会との距離感をつかみ、世界観を確立していく心の軌跡として読み取れるということです。ここに、中学生世代の参加がなかったことが残念ではありません。不登校を理由に長期欠席する中学生が16万人(令和3年度文科省・児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)います。

ボランティア活動との出会い、ボランティアする人々との出会いが自己承認や自己肯定感の向上につながることはよく知られています。多くの中学生たちに機会を設け、救いの手が差し伸べられることを切に願います。

ボランティアする心にありがとう。

受賞作品

＊児童・生徒の原文に従って作成しています。

尚、一部誤字等の修正、改行を加えている作品があります。また、受賞者のうち、本人、保護者の承諾を得た方について、顔写真を掲載しています。

【ふれあいボランティア活動感想文大賞】 駐輪場整備員をやって

東京都立綠ヶ丘高等学校

3年 新村 皇斗



暑い太陽が、住宅街にぼつんとそびえる上鷺宮区民センターを輝々しく照らしていた。この日、ここでは数年ぶりの上鷺祭りが行われる。僕は今日、ボランティアでここの高齢者専用駐輪場の手伝いをする事になっていた。駐輪場に自転車を止めるのは、六十五歳を越えた方、もしくは障がい者の方々だ。

僕は二日間、午前、午後全ての時間帯に駐輪場に立ち、止めようとしている人には、ここに止めるようにと手と口で説明し、明らかに若い人や小学生には、使えないからと、別の駐輪場へ案内する等の指示を行った。

また、行っていく中で、高齢者の方から、思い出話や、世間話を交わされる。中でも印象的だったのは、赤いチェックの服を着たお爺さんからの思い出話だった。

「昔はもつと自転車が止まっていたんだけど、今年は少ないね。自転車だけでなく、参加者も少ないように見える。やはりコロナの影響かなあ。」
寂しそうに答えるお爺さんは、駐輪場を左から右へゆっくり眺め、最後にぼそつと言った。

「私が生きている間に、またあの時の活気を見れると良いなあ。」

少し笑ったお爺さんに、僕は

「きつと見れますよ。」

と返した。お爺さんは私を見て、この日の太陽みたいに明るく笑うと、

「そうかい！なら楽しみに待つとしようか。」

と言って、会場に入って行った。

僕は、このお爺さんや、他の高齢者の方々の話を聞いて、人それぞれ思い出や願いがあるのを知った。そして、この駐輪場での経験を糧にして、これからも色々な人と交流できるボランティア活動をしうと思った。



【小学生賞】

心にのこったボランティア活動

鹿児島県南九州市立中福良小学校

3年 浮邊 菜緒妃



わたしが心にのこったボランティア活動は、白石じん社に行ったことです。

白石じん社に行ったのは、十月六日です。白石じん社に行ってみると、落ち葉がたくさん落ちていました。竹ぼうきも使いなれていなかったなので、始める前は、「これはむりでしょ」と思いました。けれど、そうじていくうちに、どんどんきれいになっていくので、なぜか楽しくなってきました。

意しきしなくても、ふつうにしゃべっても、ずつとはいっていました。わたしは歌を聞いているときに、どうしても

口ずさんでしまいます。声に出して歌ったりしていきは、他のことを考えても、む意しきに歌っています。

白石じん社の落ち葉をはいていると

きも、そのような感じでした。友だちとしゃべり終わって、下を見てみると、わたしはもう、何もな所をはいていたようです。「むだだったな」と思ったけれど、半分は「一カ所だけでもきれいなったな」と思いました。すると、「むだだったな」という気持ちはなくなりました。そして、「これはわりでしょ…」という気持ちはなくなりました。

そうじが終わると、白石じん社は始めとは大がいのすがたになりました。とてもきれいでした。きれいになつて、「気持ちがいいな」と思いました。

なぜ心になつたのかというと、そうじを始める前は心には何の色もありませんでした。でも、そうじをして白石じん社をきれいにしていくと、なぜか心にきれいな色がついていったので気持ちがよくなってきました。なので、白石じん社に行つたことが心にのこりました。

はやめの宝を大切に

福岡県大牟田市立駿馬小学校

4年 古賀 広大



ぼくたちの駿馬小学校区には、すわ川と言う大きな川があります。駿馬小では、三年生と四年生でカヌー体験



をします。カヌーは、とても楽しくて、何度もしたくなります。しかし、カヌーに乗って川の水を近くで見ると、緑色ににごっていました。こんなに水がよごれていたんだ、と気づきました。

そこで、ぼくたちはすわ川の水質について調べて、ぼくたちにできることをしたいと考えました。ぼくたちの学校は、すわ川の下流にあるので、上流や中流の水と比べてみることにしました。生物調査、パックテスト、透視度を測って調べてみると、上流や中流の水質はともきれいなことが分かりました。市役所の方に汚れの原因について、聞いてみると、生活は水とプラスチックゴミが多く原因であることがわかりました。

ぼくたちは、生活は水の水のよごれを少しでもへらすために、食べ残しをはい水口に流されないようにすることを考えました。カレーやシチューのお皿をそのまま洗うのではなく、パンでふきとって食べたり、へらなどで生ゴミに捨てたりしてから洗うことにしました。他にも、ハンドソープやシャンプーも必要な分だけのように気をつけたり、中学校と協力してすわ川のゴミ拾いをしました。

この学習を終えて、ぼくは自分の生活の中で少し気をつけるすわ川をきれいにすることにつながると気づき



ました。これからもこの活動をつづけ、たくさんの人に協力してもらるようにポスターやお手紙でよびかけていこうと思います。

初めての高れい者訪問

福岡県大牟田市立駛馬小学校

5年 柿野 蒼太



「めちやくちや元気だったよ。」

「得意なことがたくさんあったよ。」

これは、初めての高れい者訪問から帰ってきてから話した友達との会話だ。

ぼくの学校、駛馬小学校では、毎年五年生が地いきの高れい者のお宅を訪問する。地いきの高れい者はどんなことで困っているのかを聞いたり、ふりこめさぎなどに会わないように注意を呼びかけたりすることが目的だ。

高れい者のお宅を訪問する前は、一人で暮らしてあるとつらくて大変だと思っていた。しかし、それはかんちがいだった。

訪問当日、朝からどきどきしていた。

一けん目はきんちようしたまま言葉のキャッチボールができなかった。でも

六年生がサポートしてくれ、

そのサポートの言葉を見習って二けん目からはどんどん言葉のキャッチボールができた。ぼくは、心の中で、六年生



ありがとうと言った。

高れい者訪問に行つてびっくりしたことがあった。それは、高れい者の方々には元気で一人でもできることがたくさんあり、楽しそうだということだ。これはぼくの予想と大きくちがつていた。でも、足こしがいたくて、歩くのがきついということや、年金が減っていくのが心配などの困っていることもあると分かった。

だから、ぼくは自分たちにできることを考えた。考えたことは、さぎに会わないように

「電話でお金は全てさぎです。」

と、きけん性を伝えることや、地いきの方々に元気にあいさつやおしやべりをして、笑顔になつてもらふことだ。

これから、道などであつたら、大きな声で元気よくあいさつを心がけて、笑顔の駛馬校区にしていきたい。

みんなで植えた花

千葉県栄町立竜角寺台小学校

5年 木村 咲希



私は、わくわく花植えを行いました。花植えでは、学校の前の花だんの花を、クラスのみんなで植えました。

花植えでは、まず、なえが入るくらいの穴をほつて、その中になえを植えました。次に、軽く土をかぶせ、最後に、水をかけてあげました。

花を植えるのは、すぐに終わってしまいましたが、水をやるのが大変でした。水がたくさん入ったじょうろは

重かったし、たくさん花を植えたので、水をかけるはばがとても広がったです。なので、みんなで協力して、運んだり、水をかけたりしました。

私は、学校の前を小さいころから歩いていましたが、小学生が花を植えているのは知りませんでした。『みんなが見る場所だ』と思い、きれいに見えるようにがんばりました。

「植える時は、花がよく見えるようにする」といいよ。」

と、教えてくれたので、それを意識して、植えるようにしました。

私達に、花植えを教えてくれた方は、

「きれいにできたね。」

と、ほめてくれました。私は、花を植えるのが大好きなので、とてもうれしかったです。

花植えは、少しむずかしかったけど、楽しかったし、とても達成感がありました。またみんなで水やりをするなど、協力する大切さを、改めて知る機会となりました。

私だけでなく、友達、教えてくれた方、植えた花を育ててくれた方、先生方など、みんなの力で植えた花だと思えます。これからも、いろいろな花を大切にしたいと思いました。

みんなで植えたきれいな花は、今も、学校の前をにぎやかにしてくれています。これからも、元気に大きく、育ってほしいです。



おかえり！私たちの町へ

秋田県鹿角市立花輪小学校

5年 藤原 真織



私は、ボランティアにはあまり関心がありませんでした。毎朝、地域の人が歩道に散らばっている葉やゴミをほうきではいていることも特に気にせず、これがあたり前の日常の風景だと思っていました。

ある日、学校全体でゴミ拾いをするようになりました。昨年までは、学年ごとに時間を決めて行っていました。今年は地区ごとに異学年の友達と登校する時に行うことになりました。そのため、いつもより早く起きなければならぬので面どうだなどと思いながら集合場所へ行きました。するとかれてしまった花が落ちていた以外ほとんどゴミはありませんでした。花輪は大切にされているのだと思いました。

ある時、私は母に、母にとって花輪とは何か聞いてみました。すると母は「ふるさと」と言いました。その時、私は全て分かりました。毎朝地域の人がゴミ拾いをしてくれているのは私たちが大人になって進学やしゅう職で県外へ行き、

花輪へ帰ってきた時に、「おかえり」とむかえるためだと。ずっと、ゴミのないきれいなふるさとを保つために、地域の人たちが自ら行っていたのです。



私は花輪で生まれましたが、七才まで神奈川県の川崎市で生活していました。二年生の時に、花輪に帰ってきました。そんな私を心からむかえ入れてくださった地域の人たちに感謝しています。あたたかい気持ちをもって人々が花輪にたくさんいるからこそゴミがないのだと分かりました。そして私たちがボランティアをするのはその気持ちにこたえるためだと気づきました。

地域の人たちは、自分が経験し、うれしい気持ちや感謝の気持ちをもったからこそ、次の人へつなげているのだと思います。地域の人への感謝をわすれずにこの花輪で地域の一人となって過ごしていきたいと思います。

ぼくは子ども民生委員

福岡県大牟田市立中友小学校

5年 文田 洸成



ぼくの小学校では、五年生になったら子ども民生委員といってボランティア活動があります。ぼくは、二学期間民生委員をしてみて、いろんなことを経験し学ぶことができました。

ぼくが、一番印象に残っている活動は、ネットワークもぎ訓練です。これは、もしも認知症の人が道に迷っていたらどういう風に声をかけて対応したらいいかというものでした。

まず、認知症役の人の顔や服そうや、持ち物やめがねなどの特ちょうを聞いて、グループで町中を探し歩きま

した。ぼくは、絶対に見つけてやろうと思ひ、キヨロキヨロと辺りを見わたしながら進みました。

すると、大正町で認知症役の人を見つけました。僕たちは急いではや歩きしてやさしく声をかけることを意識し、目と目を合わせて話しかけました。そしたら、自分の名前をまちがえられたので、ぼく

たちが探している人の名前を言ってみると、自分の名前がそうだったと思ひ出されました。家の方向を確認して、市役所の人に見つけたということ連絡しました。その様子がテレビにうつり、なんと、ぼくがインタビューされた所も出てびつくりしました。

ぼくは、もぎ訓練を通して困っている人がいたら、積極的に人助けをしたいと思ひました。そして、いつも親切な心を持つていたいと思ひます。地いきの人たちと関わりながら、三学期も民生委員活動をがんばります。

いい市大牟田

福岡県大牟田市立中友小学校

6年 大河 叶愛



「大牟田の人は優しいな」

そう改めて思えた一日だった。

学校の授業で子ども民生委員活動という授業があった。主に地域の民生委員の人と一緒にお年寄りの自宅訪問や



ボランティア活動をする。色々な活動をした中で一番成長できた出来事は赤い羽根共同募金活動だ。

商店街に立って募金協力を呼びかけるという活動で準備をしてその日をまっていた。だがその日は雨で商店街に来るお客さんが少ないかもしれないと言われた。せっかくの機会なのにと残念に思いながらも商店街へ向かった。やはり雨なので人は少なかったが私たちが、

「募金協力お願いします。」

と声をかけ始めるとさつきまで閑散としていた商店街が一気ににぎわった。私たちがその様子にびっくりしていると、

「募金してもいいですか。」

と声をかけられた。それに続くように

次々と募金をしていく。地域の人だけで

なく保護者や先生方も協力していた。困っている人のためにすぐ協力できる大人がこんなにたくさん大牟田にいると知ってなんだか私はうれしくなった。

私達がしているこの活動がだれかの笑顔になっていると思うととてもほこらしい気持ちになった。だけど一人の力ではなく地域のみんなが協力した結果だ。大牟田の人はとても優しいのだと改めて実感することが出来た。私もこのように困っている人のために行動できる大人になりたいと思った。私も何か一つでいいから協力してだれかの幸せを手助けしていきたい。

「大牟田の人は優しいな。」

そう改めて思えた一日だった。



ペットボトルキャップ運動

福岡県大牟田市立中友小学校

6年 高口 心優



「たくさん集まったね。」

私達の学校では、ペットボトルキャップ運動をしています。私達が持って来たキャップがどのように使われるのか、また何のために集めるのか考えたこともありませんでした。そんな時先生が、

「このキャップ八百個で一人分のワクチンになるのよ。」とおっしゃいました。一人分が八百個もあるなんて信じられませんでした。世界の国や地域では、予防可能な感染症で命を落とす子供達がたくさんいます。一人でも多くの人が、ワクチンを打てるようみんなで協力し集め、今ではキャップを青、赤、白、黄、オレンジ、水色、黄緑、黒、グレー、その他の物で分別をしました。病院の方へ、キャップを渡すだけになりました。

それと同時に私は、環境のことも考えて

いきたいと思い、この夏休みに、海に優しいプラスチック作りに挑戦しました。魚がプラスチックの小さな欠片をエサと勘違いして食べていると知り、海に行って見ました。そこにはビニール、ペットボトル、プラスチック類、プランターなどたくさんさんのゴミが落ちていたのでみんなでゴミ拾いをしました。魚が食べても害にならないような、プラスチックを牛乳と酢で工夫して作りました。



魚が食べても死ななく元気に生きられるような、もつときれいな海になるよう願っています。

これからも、みんなで協力してペットボトルキャップを回収して、世界の子供達に、ワクチンを届けていきたいと思っています。一人でも多くの子供達を助けていきたいです。

ボランティア

福岡県筑紫野市立二日市小学校

6年 安川 綾乃

私の家では子供食堂をしている。月に一回お弁当を配ったり、フードパントリーといって、企業の方からもらった物を無償で提供するというような活動をしている。そこで、「ボランティア」のすごさを知った。

家で子供食堂はじめてばかりの頃、母と私で他の子供食堂をしている家に見学に行った。そこは、百円で食べておかわり自由な所だった。そこには、小学生から大人の人大約二十人くらいが来てた。そして、たくさん美味しそうに食べてた。特にうれしかったのは私が作ったサラダをがんばって食べてくれていたことだった。

その時私はボランティア、人に喜ばれる嬉しさを感じた。もっと喜んでほしいなとも思った。



そして、家の子供食堂でお弁当を配った時、十分で予約がうまったり、美味しかったと言われたり、いい事づくしだった。

私は正直ボランティアが不思議だった。お金ももらえないのに地域や人のために活動しているからだ。でも、子供食堂という活動を通して感謝を伝えられる嬉しさや、人を喜ばすことの良さなどたくさんの事を学んだ。

今はまだ、お手伝いやゴミ拾いなどちょっとしたことでできないけれど、すこしずつ自分のできることを増やしていきたい。そしてボランティア活動にも積極的に参加していきたいなと思いました。

私のボランティア

秋田県鹿角市立十和田小学校

6年 湯沢 莉桜



この一年で三つのボランティアをしました。

一つ目は、就学時健診です。新一年生の人たちが分かりやすいように教えてあげたり誘導したりすることを頑張りました。そうすることで、この小学校にはやさしい人がたくさんいるのだと、安心してもらええると思ったからです。また、注意をすることにも気をつけました。静かに並ばなきゃいけないときは、

「静かにするんだよ。」

「並んでね。」

と、優しく言うように気をつけました。言わなきゃいけない

ないときは言い、ちゃんとやらせることも、手伝う人の責任があると思ったからです。

二つ目は、ゴミ拾いをしたことです。自分が住んでいる地域をきれいにしたいという思いで行いました。自分が住んでいる地域を汚いままにしておくと、この地域に住みたいと思う人が少なくなったり、地域の人に負担をかけたりすることになるからです。何よりも、地域をきれいにすることで、ゴミを捨てにくい環境を作ることができると思ったからです。

三つ目は、地域のお祭りで、お神輿をかついだことです。地域を盛り上げたいという気持ちや、伝統を受け継いでいきたいという思いがありました。また、新型コロナウイルス感染症もあり、好きなことをしたり、遠くに旅行やお出かけができない人もいたりしたと思います。だからこそ、元

気にお神輿をかついでる姿を見て、少しでも元気になってほしいという思いがあり、お神輿をかつぎました。

ボランティアを通して思ったことがあります。それは、ボランティアは、周りの人たちの笑顔のためにやることだと思いました。ボランティアを通して、周りの人たちのために自分ができることは、たくさんあるのだと、気づくことができました。これからは、周りの人の笑顔のために、進んで参加したいです。



【高校生賞】 図書館ボランティアを通して

東京都立六本木高等学校
2年 飯島 詩音

私は、今年の夏休みに「2022夏！体験ボランティア」ボランティア活動体験に参加した。数ある体験先の中から私は港区立三田図書館にボランティアに行くことにした。

主な活動として二つのことをした。一つ目は本の配架である。配架とはお客様が返却された本や他の区立図書館から送られてきた本を元ある場所に返すことだ。最初はこの配置が覚えられず、一冊戻すのに苦労したが、最終日には倍以上の速さで配架できた。しかし、ただ元の場所に戻せばよいのではなく、小説であれば筆者の名前のあいいうえお順にする、シリーズ本であれば番号通りにする、などのお客様が快適にご利用いただけるための細やかな配慮があり、とても感動した。

二つ目はブックポストに返却された本の回収と返却作業である。

今回初めて知ったのだが、ミスを防ぐために合計で三回も返却処理が行われるそう。一回目はブックポストに入れたときに自動的にICチップを読み込む。そして三



回目に手動で処理をする。自分が利用者側のときは気づかなかったが、一冊の本を貸し借りするのに大勢の人が関わっていると知れた。

ボランティアに参加する中で、自分の反省点も見つかった。それはお客様が求めていることを汲み取る力が不足していたことだ。本の検索結果をお持ちのお客様が私に、「この本はどこにあるのかしら？」

と尋ねられた。そこで私はその棚までご案内したのだが、今振り返ると自分が本を探して直接お渡しすればよかったと後悔している。

今回ボランティアを通して、案外自分は人と接するのが好きなのかもしれないと感じた。来年もボランティア活動をする際は、より多くの人と関わるものに参加したい。

人を助けること

東京都立稔ヶ丘高等学校

2年 渡辺 想来



私は母と、いつもと違うお店に、買いものに行ってました。お店に向かう途中の道は急な坂があったり、地面がデコボコだったりと険しい道でした。

買いものが終わって帰るときに、荷物を沢山持つて杖をつく高齢のおばあさんが前を歩いていました。今にも転びそうだったため、母とあのおばあさん危ないねという話をしていました。その話をしたとたんにおばあさんが転んでしまいました。すぐ助けにいかうとしたのに丁

度信号が赤になってしまいすぐには行けませんでした。

人通りは割と多かったため何人か横を通りすぎているのに見るだけで誰も助けようとしていませんでした。

なぜ誰も助けられないのかと怒りの気持ちが出てくると同時になかなか起きあがらないおばあさんが心配になりました。そこで、やっと信号が変わりました。急いでおばあさんを助けにいきましました。特にけがはしておらず、母と二人で起きあがらせました。するとおばあさんが私に對して、

「助けてくれてどうもありがとう。あなたは本当に優しいですね。見捨てなくてくれて本当にありがとう。その優しい気持ちを忘れずに、大人になっても困っている人がいたら助けてあげてね。本当にありがとう。」

といわれ、おばあさんを助けてよかったという気持ちと、こんなに嬉しいことはないと思いました。人を助けるってこんなに素晴らしいことなんだと実感しました。まるでスーパーヒーローになった気分でした。

私はこの経験を大人になっても絶対に忘れず、素晴らしい気持ちを持ったまま成長していきたいと思います。



未来の後輩へ

東京都立稔ヶ丘高等学校

3年 小柳 遙歌



私は今年の夏、中学校時代に通っていた適応指導教室を訪問した。そこでは後輩に対し自分の高校生活について語った。

後輩達の中に、積極的に質問をしてくれる中学三年生の生徒がいた。どうやら彼女の第一志望は私の通っている稔ヶ丘高校らしく、彼女は学校の雰囲気や試験対策について熱心に聞いてくれた。稔ヶ丘高校は定時制やⅢ部制など複雑なシステムが多く、口頭で説明することはとても難しかった。それでも真剣に将来に向き合う彼女の姿を見て彼女の想いに応えたいと思った。私は会話のテンポを意識したり、自分の体験談を交えたりしながら説明をした。

ひと通り説明をした後、彼女は稔ヶ丘高校の学校見学ツアーに参加した話をしてくれた。ツアーのスタッフを担当したのはなんと私だったらしい。私は驚くと同時に覚えてもらっていたことにすごく嬉しくなった。学校見学ツアーのスタッフを担当したときも、適応指導教室を訪問したときも、私は完璧なしやべりができた自信はない。しかし、苦戦しながらも自分の言葉で、自分にしか



できない発表ができたと思う。私の言葉が少しでも発表を聞いてくれた人達に届いていると嬉しい。トーク技術の向上のためにも、これからもボランティア活動に参加したい。

そろそろ受験シーズンが始まるので、私の発表を聞いてくれた彼女も入試準備に向けて頑張っていると思う。彼女が稔ヶ丘高校を受験するかは分からないし、入学したとしても私は来年度には大学生になってしまうので彼女に会うことはできないと思う。けれど、彼女が自分らしい高校生活を送れるよう、私は強く願っている。

活動を将来に活かすこと

東京都立稔ヶ丘高等学校

3年 坂本 真菜

私は高校生活で主に二つのボランティアに参加しました。まず一つは看護ボランティアです。

実際に精神科病棟へ行き、作業療法にも参加しました。患者と関わる為、どのように接するのが良いのかを悩みました。

しかし、最後、患者に感謝の言葉を言われ、とても嬉しく思いました。

二つ目は学校案内ボランティアです。

放課後や夏休みに中学生とその保護者へ学校案内をしました。自分の体験などを混ぜながら案内をすることで相手にわかりやすく伝わるよう工夫しました。



私はボランティア活動を通して新たに自分が好きなことを知りました。それは人と関わることです。以前までは人と話すことが苦手だと感じていました。しかし、ボランティアを経験し自分の自信になり、積極的にコミュニケーションを取ることができるようになりました。今は友達が増え、人と話すことが大好きです。

私の将来の夢は看護師になることです。看護師は医者だけでなく多くの医療従事者との連携が大切です。私は多くの人とコミュニケーションを取り患者に寄り添えるような看護師になりたいと考えています。その為にボランティア活動で身につけた知識や能力を医療現場でも活かせるようにしたいです。自分にできないような看護を患者に提供できるように頑張ります。

野球を通して

東京都立六本木高等学校

3年 沼田 航輝

私は中学二年から不登校になってしまいました。ですが毎週日曜日にクラブチームの野球を習っていました。中学卒業後に監督に誘われ、コーチとしてもう一度通うことになりました。教えてもらう側から教える側になったので、最初はうまく伝えるのが非常に難しかったです。

そこで私は選手一人一人に対しての話し方を意識してみました。この子はしっかりと説明をしてあげないと分からない子や逆に難しくレベルを上げて伝えても理解が

できる子など様々なタイプの子が居るので、自分への勉強にもなっていると思います。首脳陣にもいろいろなタイプがいます。時には優しく、時には厳しく指導するタイプや論理的に教え選手たちに考えさせる方もいます。あくまで選手たちが主役なので我々裏方が全力でバックアップができているよい環境だと思います。教える側になって改めてサポートしてくれる人達のありがたさを感じました。

これからの私の目標は選手一人一人のレベルアップと一人一人がもっと野球の楽しさを知ってもらうことです。

野球は捕る、投げる、走る、打つと覚えることが多くあります。なので一人一人が上達すればチームがレベルアップします。上達すれば野球の楽しさをより深く気づき野球に対する熱意や意識の変化があると思います。私個人としての目標にしました。中学生の子達なので思春期や伸び悩みむ子もいますが選手同士が切磋琢磨し成長する姿を見てやりがいを感じています。

これからも選手達一人一人が伸び伸びと野球ができる環境作りを徹底し、私個人としても選手たちを通して話し合い、人として成長ができるように努力をしたいと思っています。

この経験を生かしてさまざまな取り組みに挑戦することとも大事だと気づくことができました。これからも恩返しができる様尽力したいと思っています。



地域の方達に貢献できるボランティア

東京都立総ヶ丘高等学校

4年 服部 蒼太

自分はそ母の影響で小学校4年頃から地域のボランティアをやっていました。

そこでは一月には、雪かきなどを、二月にはみこしが出るため交通整理などを率先したり、七月には盆おどりや地域の夏祭の支援をしたり、十月には防災訓練や消火訓練などをしたり十二月にはひょうしぎ切りなどやって地域のボランティアをやっています。

その中で一番印象が強いのが防災訓練です。そこでは、きしん車やたき出しを火おこしからやったり地元消防団の方達と消火訓練したりするイベントです。当初小学校四年の自分は、火おこしなどをやって頑張ってたのをしたのですが中学校二年の頃に疑問をいただきました。

それは、地域の人達がいざという時のための訓練なのに当初だれ一人として地元の人達はいませんでした。自分はこれでは、だめだと思ったのですが中学の頃は何も言えませんでした。

ですが高校一年の時、意を決して言ってみたらその言葉を受け入れてもらえて、自分中心で地域の子供達をターゲットにして防災訓練をやってみた所、一緒に親御さん達も来ていただけのようになり、今では十月の防災訓練の時だけは、自分が指示を出したりして子供達にもあぶなくならないような防災訓練が出来るようになり、ボ

ランティア主催者の方にも感謝され、地域の方達に貢献できるイベント作りが出来ました。

これからもボランティアを頑張っていこうと思います。



参加校・団体数81校6団体

参加児童・生徒数23,027人

青森県		弘前市岩木児童センター	42		小都市立味坂小学校
岩手県		盛岡市立月が丘小学校	43		小都市立小郡小学校
		盛岡市立厨川中学校	44		小都市立御原小学校
		鹿角市立花輪小学校	45		小都市立立石小学校
		鹿角市立楽平小学校	46		小都市立三国小学校
		鹿角市立十和田小学校	47		小都市立大原小学校
		鹿角市立大湯小学校	48		小都市立東野小学校
秋田県	鹿角市教育委員会	鹿角市立尾去沢小学校	49		小都市立のぞみが丘小学校
		鹿角市立八幡平小学校	50		小都市立宝城中学校
		鹿角市立花輪中学校	51		小都市立大原中学校
		鹿角市立十和田中学校	52		小都市立立石中学校
		鹿角市立尾去沢中学校	53		小都市立小郡中学校
		鹿角市立八幡平中学校	54		小都市立三国中学校
		新庄市立新庄中学校	55		福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
		最上郡鮭川村立鮭川小学校	56		踊る隣組
		最上郡鮭川村立鮭川中学校	57		大牟田市立みなと小学校
		YVY:「SAKEKKO」(鮭川村)	58		大牟田市立天領小学校
		最上郡舟形町立舟形中学校	59		大牟田市立駿馬小学校
		YVY:「ふなっ子」(舟形町)	60	福岡県	FB 大牟田市立大牟田中央小学校
		山形市立第一中学校	61		大牟田市立大正小学校
		山形県立山野辺高等学校	62		大牟田市立中友小学校
		YVY:「Bin's」(鶴岡市)	63		大牟田市立明治小学校
		YVY:「夢憶巾(ぼけっと)」(大江町)	64		大牟田市立白川小学校
茨城県		つくば市立荏碓第一小学校	65		FA 大牟田市立平原小学校
		栄町立安食小学校	66		大牟田市立高取小学校
千葉県	員会 社 栄 協 協 町 助 助 社 教 教 会 育 育 福 委 委 益	栄町立布織小学校	67		大牟田市立三池小学校
		栄町立竜角寺台小学校	68		大牟田市立羽山台小学校
		栄町立栄中学校	69		大牟田市立銀水小学校
		品川区立小中一貫校荏原平塚学園	70		大牟田市立上内小学校
		FA 品川区立品川学園	71		FB 大牟田市立吉野小学校
		小平市立小平第一小学校	72		大牟田市立倉永小学校
		小平市立小平第五小学校	73		大牟田市立手籠小学校
		小平市立小平第十四小学校	74		大牟田市立橘中学校
		小平市立学園東京小学校	75		大牟田市立宮原中学校
		小平市立小平第五中学校	76	筑紫野市	筑紫野市立二日市小学校
		小平市立花小金井南中学校	77		神埼市立神埼小学校
		FA 武蔵村山市立小中一貫校村山学園	78		神埼市立西郷小学校
		FA 都立六本木高等学校	79		神埼市立脊振小学校
		FB 東京都立登ヶ丘高等学校	80		神埼市立千代田西部小学校
		東京都立いの木特別支援学校	81		神埼市立千代田中部小学校
山口県	FA	山口市立白石中学校	82		神埼市立千代田東部小学校
◇ふれあいボランティアバスポートフレンズ（FA / FB） (FA):教育委員会や学校・団体が作成したオリジナルふれあいボランティアバスポートを使用して参加いただいています。 (FB):ふれあいボランティアバスポート類を使用せず、申込時の参加人数を寄付団体数で分けて、寄付のみに参加いただいています。 (※今年度で終了) ◇取りまとめ団体(教育委員会・団体) 管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて参加いただいています。 ◇都道府県市町村名のみとはならず、各校单独申込みです。 ※YVY=やまがたヤングボランティアサークル			83		神埼市立仁比山小学校
			84		神埼市立神埼中学校
			85		神埼市立脊振中学校
			86		神埼市立千代田中学校
			87	佐賀県	南九州市立中福良小学校

令和４年度ふれあいボランティア活動感想文集

令和５年３月発行

認定ＮＰＯ法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区天沼 ３－７－３

荻窪法人会館 ３階

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp